道徳通信かがわ

第４１号
令和３年７月１９日（月）
香川県教育委員会事務局
義務教育課

「考え、議論する」授業　－研究推進校　公開授業－

６月２９日（火）、善通寺市立西中学校において、「道徳的価値を深める『考え、議論する』授業」を研究主題として道徳科の研究授業を行いました。各学年１クラスが代表で授業を行い、授業後の検討会では、香川大学清水先生からご指導をいただきました。

【１年生「銀色のシャープペンシル」（東京書籍）】

生徒に「自分が悪くても素直に謝れない『心の弱さ』にどう向き合わせるか。」がポイントでした。授業者の高木先生は、事前アンケートと本時における反応のズレから巧みに葛藤場面を作りました。具体的には、事前には「すぐに謝るべき」が多かったのにも関わらず、「自分ならどの場面で謝れるか」という発問に対しては、「少し時間が経ってから」という反応が多い事実を、ＩＣＴを活用しリアルタイムで視覚化しました。終末の振り返りでは、分かってても行動化は難しいという人間理解を深めた上で「偽りのない生き方をしたい」という決意をワークシートに書き留めていました。

【２年生「宝塚方面行き―西宮北口駅―」（東京書籍）】

大声で注意するおじいさんを非難したい気持ちをぐっとこらえ、自分にベクトルを向け、公共の場での、友達のための席とりが「自分本位な迷惑行為だった」と素直に認め、反省できるか否かがポイントでした。そのために、授業者の香川先生は、ミサの正しさを数値化する「正しさスケール」を用いて生徒の考えを表出させていました。生徒たちは、「正しさスケール」に貼られたネイム磁石の位置で友達との違いに気付き、自分の道徳的価値観を揺さぶられ、葛藤していました。１年生の時の道徳教材「本が泣いています」が提示された時、「覚えている！」と公共の意味を想起し、「ルールの外側にある『マナー』を、何のために守るのか」について、より議論が深めていました。

【３年生「人間の命とは―人間の命の尊さ・大切さを考える―」（東京書籍）】

「意識がなく自分の意思を示せない人の命をどのように決定したらよいか」というテーマは重く、安易に結論としなかったのが素晴らしいと感じました。授業者の高橋先生は、生徒に対し、家族、主治医、裁判所、それぞれの立場に立たせ、妥協なく判断とその根拠を求めるものの、正答はこれだと明示するのではなく、一貫して生徒とともに考え続ける姿勢を貫いていました。家族は「娘を楽に」「苦しいだけなのでは」「見るに忍びない」「費用がかさむ」等と考えたのではないだろうか。医師は「意識のないままの死はかわいそう」「どんな理由も命は奪えない」「生きていることが大事」と考えたのではないだろうか。立場を決めて繰り返し話し合い、議論を深めていました。